

1 月 教 育 委 員 会 会 議 会 議 録

日時：令和2年1月16日 午後2時
場所：山口県教育庁教育委員会室

教 育 長	<p>それでは、ただいまより令和2年1月の教育委員会会議を開催いたします。</p> <p>最初に本日の署名委員の指名を行います。</p> <p>中田委員と小崎委員、よろしくお願ひします。</p> <p>それでは、議案の審議に入りたいと思います。</p> <p>議案第1号について、社会教育・文化財課から説明をお願いします。</p>
社会教育・文化財課長	<p>議案第1号「山口県文化財保護審議会委員の任命について」御説明いたします。議案資料の2ページをお開きください。</p> <p>当教育委員会の付属機関であります「山口県文化財保護審議会」の委員の任期（2年）が、今月1月末をもって満了いたしますことから、山口県文化財保護審議会条例第2条第2項の規定により、委員の改選を行うものです。</p> <p>今回の改選にあたりましては、委員総数はこれまでどおり16名（条例：25名以内）とし、人選につきましては、審議事項の専門性を考慮し、県内外の文化財に造詣が深い委員を選考しました。</p> <p>その結果、3ページのほうにございますとおり、16名のうち、14名を再任とし、2名について新たに就任をお願いしたいと考えております。</p> <p>新任の2名の方ですが、まず委員名簿の上から6番目、山口大学人文学部人文学科准教授の尾崎千佳氏は、日本中世文学・近世文学がご専門で、特に連歌や俳諧などの研究をされています。尾崎氏には、中世から近世にかけての書跡や典籍の分野で御意見をいただくこととしております。</p> <p>次に委員名簿の上から8番目、山口大学経済学部経済学科教授の木部和昭氏は、日本近世史がご専門で、特に漁業や海運などを中心とした経済史を研究されており、江戸時代の古文書や歴史資料、史跡に関する内容で御意見をいただくこととしております。</p> <p>また、両氏はこれまで山口県史の編纂でも委員として御活躍されており、専門的分野での高い識見をお持ちであることから、今後は山口県の文化財の指定等に大いに御貢献いただけるものと考えております。</p> <p>以上、御審議の程よろしくお願ひいたします。</p>
教 育 長	<p>ただいま社会教育・文化財課から議案第1号について説明がありましたが、御意見、御質問はありますか。</p> <p>委員16名中14名が再任で、2名が新任ということですね。</p>
教 育 長	<p>議案第1号について、承認することとしてよろしいですか。</p>

全 委 員	承認
教 育 長	議案第 1 号を承認いたします。
教 育 長	続いて報告事項に入ります。 報告事項 1 について、社会教育・文化財課から説明をお願いします。
社会教育・文化財課長	報告事項 1 「山口県文化財専門員の選考採用試験の結果について」御報告いたします。議案資料の 6 ページを御覧ください。 文化財専門員の選考採用試験の実施につきましては、昨年 9 月の教育委員会会議において御報告したところですが、本日はその結果について御報告いたします。 「1 選考日程」のところにありますとおり、受験者の募集を昨年 9 月中旬から 10 月中旬にかけて行ったところ、全国から 3 名の応募があり、同月下旬にかけて書類選考による第 1 次選考を行った結果、応募者 3 名全員を合格としました。 その 3 名の合格者について、11 月 24 日に面接試験及び適性試験による第 2 次選考を行った結果、最終合格者 2 名を決定し、受験者に通知したところですが、 今後、採用手続きを進め、本年 4 月 1 日付けで採用する予定です。 以上、御報告いたします。
教 育 長	ただいま社会教育・文化財課から報告事項 1 について説明がありましたが、御意見、御質問はありますか。
教 育 長	それでは、報告事項 1 については、以上のとおりとします。 続いて、報告事項 2 について、学校安全・体育課から説明をお願いします。
学校安全・体育課長	この度、スポーツ庁が実施しました「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の山口県の結果について、主な内容を説明します。資料 7 ページをお開きください。 本調査は、7 ページの 2 (3) にありますように、全国の小学校・特別支援学校小学部の 5 年生及び中学校・特別支援学校中学部の 2 年生の男女を対象に、平成 31 年 4 月から令和元年 7 月の間に、実技 8 種目と質問紙の調査が悉皆で行われました。 調査対象には国公立が含まれておりますが、ここでは本県の公立学校の状況を御説明します。 まず、4 のグラフ、身長・体重については、中 2 女子の体重のみ、全国平均と同じでしたが、それ以外については全ての調査対象で全国平均を下回っています。 8 ページの 5 (1) を御覧ください。体力の総合的な指標である「体力合計点」は、4 つの全ての調査対象で全国平均を下回る結果となっています。下のグラフは、本県の体力合計点の推移ですが、小 5 男子、中 2 男子に関しては、平成 20 年の調査開始以来、過去最低値

を記録しました。

次に、9ページのレーダーチャートを御覧ください。このグラフは、各調査項目の全国平均値に対する相対位置を示したもので、点線の50が全国平均となります。

これまで、本県の課題であった柔軟性については、平成28年度から、重点的に取り組んできたところであり、「長座体前屈」の大きく凹んだところが改善されてきましたが、依然として全ての調査対象において全国平均に届いていないという状況です。

次に、10ページの上のグラフを御覧ください。柔軟性の指標である「長座体前屈」の推移を表したグラフです。折れ線が全国、棒状が山口県ですが、昨年度の記録と比較して小5女子が上回り、これまでの最高値となりました。また、中2男子、中2女子は昨年度と同じ記録でしたが、中2女子は本県のこれまでの最高値であり、中2男子はこれまでで2番目の記録となりました。

10ページの下グラフは、持久力の指標である「20mシャトルラン」の推移ですが、これまで同様、全ての調査対象で全国平均を上回っています。

11ページを御覧ください。「ボール投げ」や「握力」については全国同様、本県においても低下傾向にあります。

12ページを御覧ください。「6 運動習慣等調査」の結果です。上のグラフは、「運動やスポーツの実施時間」についてです。体育の授業を除く1週間の総運動時間は、全ての調査対象で全国平均を上回りました。下側のグラフは総運動時間別の度数分布ですが、右下の中2女子において、全国同様、運動習慣の二極化が顕著であり、大きな課題であると認識しております。

14ページを御覧ください。今年度の取組の成果と課題についてですが、各校での柔軟性向上に向けた取組や「1校1取組」の充実などにより、一定の成果は表れてきているものの、「体力合計点」を含め、ほとんどの体力要素で全国平均を下回っているなど、バランスのとれた体力向上や運動習慣の改善・定着に向けた取組の充実を一層図っていく必要があると考えています。

下の枠囲みでは、今後の取組の方向性をお示ししています。今月末、スポーツ医・科学の専門家等による「体力アップチャレンジ協議会」を開催し、その中で、今年度の体力調査等の結果を踏まえ、体力の向上や運動習慣の定着に向けた取組の検証及びその改善を図ることとしています。また、2月には市町教委の担当者会議を開催し、これらの情報を共有するとともに、各市町・学校の必要に応じながら、改善に向けた取組を進めていきたいと考えております。

今後も市町教委と連携し、子どもたちの体力向上、運動習慣の定着・改善に向けて取り組んでまいります。

教 育 長

ただいま学校安全・体育課から報告事項2について説明がありましたが、御意見、御質問はありますか。

佐 野 委 員

こういったデータを見させていただくと、我々が持っている“元気な山口っ子”のイメージと若干違うのかなと思いました。体格的には

	<p>全国平均から僅かながら低く、体力調査の数値も“元気な山口っ子”のイメージとは多少違っていて、こういうのをちゃんと見ないと分からないものだなと感じております。ただ、「20mシャトルラン」や持久走といった得意分野も見えてきている。そういったところを評価し、さらに伸ばすことで、子どもたちの自己肯定感につながらないかなと期待しております。とりわけ、数字が上がっている項目というのは必要な要素だから上げてらっしゃると思いますので、他の要素についても、実際に役に立つこととか、子どもたちが「すごいな」と思うようなこととかあわせて、引き上げていただくような方策を取っていただきたいと思います。</p> <p>また、1週間の総運動時間のグラフを見て、全国的に運動しない子どもが一定数いて、あまり動いていないのではないかと感じています。</p> <p>特に中2女子の運動しない子どもの割合が凄く顕著さみ。全国的な傾向と同じですが、これだけ運動しない子とする子が分かれていると、運動しない子の健康面なんかで影響ないのかなと心配になってしまう。そのあたり、いかがでしょうか。</p>
学校安全・体育課長	<p>御指摘のとおり、中2女子で運動を全くしない子どもが多いということで、運動習慣の二極化についてはしっかりと取り組んでいかなければならない課題だと思っております。</p> <p>二極化の要因はいろいろとあり、例えば文化系の部活動をしている子どもたちは、体育の時間以外の運動時間がどれくらいあるのか、といった要素が中学校で入ってくるのかなとは思っていますが、やはり、一定時間の運動をしていくことは、将来にかけて健康的な生活をする上で大事な要素になっていきます。いろんなアプローチのしかたがあろうかと思いますが、体育の授業で運動の楽しさや必要性をしっかりと理解してもらって、運動好きな子どもを作っていく、という取組も含めて、考えていきたいと思っております。</p>
教 育 長	<p>特に中2女子の健康面における状況はつかんでないですかね。</p>
学校安全・体育課長	<p>中2女子における、運動の少なさによる健康面への影響についてはつかんでおりません。</p>
中 田 委 員	<p>小中高同じかもしれませんが、歩いて登校したり、自転車で登校したりといった時間って、運動の時間にカウントしていないでしょうか。</p>
学校安全・体育課長	<p>登校時間は運動の時間としてカウントしていません。</p>
中 田 委 員	<p>例えば片道30分歩いて登校しているのって、本当は相当な運動の時間になっていますよね。そういうのを考えると、実態と違う気がします。</p>
教 育 長	<p>全国的な基準ですよ。</p>

学校安全・体育課長	調査は全国一斉に行っており、いわゆる「体を動かす運動をやっている時間」を運動時間のカウント基準としています。
教 育 長	全国調査をするからには、やはり全国的に同じ基準でやらないと何ともいえない。
中 田 委 員	都会では電車などで学校に通っている子どもたちも多いが、山口県では電車やバスを利用しての小学校・中学校への通学が出来ない。そのあたりの条件が相当違いますよね。確かに比較という意味では、全国同じ基準でやらないといけないものの、実際のところ、登校によって運動時間が十分達成されている人はいるかと思います。
宮 部 委 員	<p>私も1週間の総運動時間について話をしたいと思います。一番分かりやすいのが小5男子で、山口県でも全国でも5百何分でした。1週間のうち土日が休みで、先ほどの話で登校時間はカウントしないということになっている。昔は半日遊んで、480分。この差があるのって、ほとんどしていないのと一緒ですよ、遊び時間を考慮すると。平日と土日を分けてもあまり参考にならないのではないかと。2日間ずっと遊んだら、それだけ運動もする。運動が好きな子なら「勉強しろ」と言われてもずっと遊んでいる。ちょっとこの調査のしかたで出された数字と言うのはあんまり意味がないのではないかと、私は常々思っています。</p> <p>これは市町に関係があるのですが、昔、我々が小さな頃は近所に児童公園というのがあって、ボールを投げたり蹴ったり、いろんなことを一緒にやってやっていた。それが今はどこへ行っても出来ない。先日、テレビで子どもたちが行政へ要望書を出し、「この公園だったらボール遊びしても良い」とか「午前中は禁止だが、午後ならOK」といったルールを議会で審議し、それが通った、というニュースが報じられた。そのような工夫をしないと、平日に子ども、特に小学生に対して「外で遊べ」と言っても、その場所がないわけですよ。</p> <p>話は変わりますが、ある体育館で綱引き競技がありました。その小学生は、体育館の中をずっと走り回っているのですよね。要するに、普段は動きたくても動ける場所がない。それで、体育館や芝生のような広々とした空間のところへ行くと、滑ったり、わざと転んだりといったことをするようになる。施設の問題と使い方の問題をどうにかしないと、いつまでも解決しないのではないかと思います。「ボール投げ」が飛ばなくなったのは、普段からボールを投げることがなくなったからとか。</p> <p>「『長座体前屈』でダメだったのが少しずつ改善されている」。種目別に言うのであればともかく、そうでなければ全体的に吟味した数字を普通に調べているだけで、何にもならないのではないかと思います。</p>
教 育 長	様々な御意見をありがとうございます。

額原委員	9ページのグラフのところで、小5の男女について平成27年と令和元年を比べたとき、全体的な落ち込みが大きい気がします。これには特別な要因というのがあるのでしょうか。
学校安全・体育課長	その分析はまだはっきりと出来ておりませんが、スポーツ庁は全国での全体的な数値低下傾向の背景として、「授業時間以外の運動時間が減った」、「スマートフォンやテレビを見る時間（スクリーンタイム）が増えている」、「肥満の児童・生徒の増加」、あるいは「朝食を食べない児童・生徒の増加」といったことがあるのではないかと推察しております。本県についてもまた、似たような傾向がございますので、そういったことも影響しているのではないかと思います。ただ、全国と比べて下がったことについては、まだ分析しておりません。
小崎委員	今後の取組についてですが、今年は東京オリンピック・パラリンピックの年なので、普段は運動に興味がない子どもたちも、オリンピックの競技を見ることで少しでも興味が出るのではないかと思います。「一層の充実」とあるが、どういうことをされるのかなというのはすごく興味がありますし、いろんなことをしていただきたいなと思います。 萩からもカヌーの選手がオリンピックに出場するのですが、そのようなアスリートの力を借りて、子どもたちへの講演をすとか、競技を体験してもらう機会を設けるといったところも充実してもらいたい。
学校安全・体育課長	「オリ・パラ教育」につきましては今、国の事業を活用してモデル校を指定し、そこでの取組等を実践しており、そういった成果を各学校にお知らせしたいと考えています。その中で、オリンピック・パラリンピアンの方に学校へ来ていただいて、話をしたり、一緒に競技をしたりといった様々なことを通して、オリンピック・パラリンピックに対する意識を鍛えていきたいと考えています。
小崎委員	ぜひ、お願いします。
佐野委員	今の小崎委員の話と同じになりますが、オリンピック・パラリンピックの開催が近づいて、資料3ページのグラフにあるとおり、自分でもやってみたいとか、関与してみたいという割合が増えているのがちょっと好ましいなと思う。本当、滅多にない世界的なイベントが日本で開催されるので、この機会に子どもたちの成長に良い影響を与えるような方法や企画をしてほしいと思いますし、そういう気持ちになった子どもたちがしっかりと体を動かせる場や機会があれば良い。安全面の制約とかはあるでしょうけど、地域の中では学校が自由に動ける場所だと思うので、そのような活用というか、今まで以上に開けていただけたらと感じます。
教育長	何か課長のほうからありますか。
学校安全・体育課長	学校の施設開放につきましては、安全管理という問題もございませ

	<p>て、例えば遊具をしっかり管理できるかとか、そういうところも考慮して検討しなければいけない。基本的に小・中学校の施設開放は各市町のほうでやっておられるとは思いますが、「運動できる場所が必要になってくる」とありましたので、やはり、そういう場を確保できるかというのは、市町教委と話をしていきたいと考えております。</p>
中 田 委 員	<p>9ページのグラフで「20mシャトルラン」だけ全国と比べて相当上回っているのですが、この競技だけ良いという要因はあるのでしょうか。</p>
学校安全・体育課長	<p>「20mシャトルラン」は資料16ページにも書かれてありますが、体力要素のうちの持久力がどれだけあるかを計測します。子どもが持久力をつけるのは、よく体を動かすからというのが一般的な考えです。すなわち、運動習慣があるとか、体を動かすのが好きだとか、そういった子どもたちの割合が高いから、こういった数字にも出ているのかなと考えております。</p>
教 育 長	<p>参考資料として、心・食・体のバランスが取れた子どもたちの割合は、全国と比べればわずかに上回っているものの、全体的に低い傾向だった。小・中学校のなかで体を動かす時間というのが少ないですよ。まあ、良いところもあるので、だんだんと伸ばしていけるよう、努力していきたいと思っております。</p>
教 育 長	<p>それでは、報告事項2については、以上のとおりとします。</p>
教 育 長	<p>次に、次回の教育委員会会議の日程について、教育政策課から説明をお願いします。</p>
教育政策課長	<p>次回の会議は、令和2年2月20日（木）13時からを予定しています。よろしくお願いいたします。</p>